

長畝ふるさと通信

【2015年12月号】

■ 島内職業紹介イベント「佐渡再発見」にて

12月6日、佐渡市と佐渡市PTA連絡会が主催する「佐渡再発見」という小・中学生を対象とした島内の職業紹介イベントに参加しました。会場には200人程の子供と父兄が集まり、病院や福祉、消防や観光ホテル、製造業など11の業者がブースを開設しました。農業分野からの出展は初めてということで、最初に行われた全体のプレゼンテーションで「今日来ている消防や観光、福祉や製造業などは人間が生きていく上であったら便利な産業。食糧生産をする農業はなくなったら困る産業」と農業の必要性をアピールしました。しかし、その後、各ブースに分かれての説明会となったのですが我が社のブースには全く子供達が集まりません。子供達にと



って農業ってやっぱり興味が無いのでしょうか……。佐渡のトキと田んぼの関係性や1年を通しての稲作作業などを紹介しても、やはり子供達にはピンとこない様子。そこで、「日本は世界で一番食べ物を粗末にする」話をする、やっと食いついてきました。「アメリカ人は年間一人当たり105kgの食糧を廃棄するのに対して、日本人はなんと152kg。年間約2000万トンもの食糧廃棄量は食糧難で苦しむ5,000万人分の食糧に匹敵します。食べ物を粗末にすると世界中の笑いものになります。残さず食べましょう」と話すと「ウソでしょ……」とかなりショッキングだった様子。

佐渡米の生産量は年間約18,000トン。国民30万人分、たったの0.3%でしかありません。それでも日本にとっては大事な産業だと思っているのですが……

■ 学校田のお米試食会にて



12月18日、地元の行谷小学校の学校田でとれたお米の試食会に招待されました。先月、このお米の精米をしてあげたお礼と総合学習の発表会ということでした。ボクの他にも学校田の提供農家や生きもの調査の指導をしてくれた農家やJAなどが同席しました。

教室に入るとクラスのスローガンが大きく張り出され（左写真）、4～5年

生16人の複式学級の生徒が元気よく迎えてくれました。

机の上にはすでに手作りの「ちらし寿司」とキュウリの浅漬けが配膳されており、先生の号令で試食会が始まりました。肝心のご飯より卵焼きやエビなどのトッピングネタの方に話が集中した感はありましたが、とても美味しかったです。発表会では「お米は種→苗→稲→モミ→玄米→精米・白米→ごはん」と名前が変化すると解説する生徒や、「トキがもっと増えるよう、お米をたくさん食べようと思います」とうれしい発言をする生徒もいました。将来、佐渡の農業を支えてくれる逸材がきっとこの中から出現してくれるでしょう。それまでの間、もう少し頑張ろうと思いました。



■ 岐路に立つおけさ柿生産

右の2枚の写真はどちらも12月末の同じ日に撮影したものです。上の写真は収穫放棄されそのまま放置された園地。後継者も見つからず、来春の見通しが全くありません。下の写真は収穫後、老木をすべて伐採し、整地しなおして堆肥を大量に散布し、新しいおけさ柿の苗木を植えたばかり園地。「桃栗3年、柿8年」と言いますがまさに将来を見込んで大胆な改修に取りかかった「会社組織」の園地です。高齢化に加え、消費離れや生産単価安による経営困難は生産の岐路に立たされています。地域をまるごと支える仕組みが無ければ佐渡の農業を守っていくことは出来ません。課題ははっきりしているのに対策が打てない歯がゆさよ。



12月に一度も雪が積もらない年は近年記憶にありません。世の中も気象も著しく変化しているのに、農業はその変化に追いつけません。また、1年が過ぎてしまった・・・。

良いお年をお迎え下さい。